

ヌカボタデ		<i>Persicaria taquetii</i> (H.Lév.) Koidz.	準絶滅危惧
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)			タデ科
選定理由	分布地が少なく、生育地の環境が悪化している。	写真(加藤範夫)	
形態の特徴	一年草。下部は地をはい、上部は立ち上がって枝を分け、高さ20-40cm。葉はほぼ無柄、狭披針形。葉鞘は筒形で同長の縁毛がある。		
生態的特徴	ため池の周辺、湿り気のある河川敷など人里近くに生育する。		
分布状況	本州・四国・九州に分布、岐阜県では飛騨地方、美濃地方の河川周辺に分布する。		
減少要因	生育地が人里に近いため、開発等による環境の悪化。		
保全対策	開発や湿地の埋め立てなど、生育地の保全。		
特記事項			
参考文献			